

令和6年度 府中市立新町小学校 学校経営計画

府中市立新町小学校
校長 高橋 伸嘉

Empathic School Shinmachi II

～ あなたも わたしも 宝物 ～

【学校教育目標】

○よく考えて伸びる子
・基礎事項の習熟や主体的・対話的で深い学びをとおして、生きて働く知識や技能、思考力や判断力などを習得し、確かな学力を身に付ける児童の育成【問題解決力】
◎思いやりをもって伸びる子
・体験的な活動を通して、思いやりをもった豊かな心を醸成し、自己や他者を大切にし、みんなと仲良くする児童の育成【人間関係形成力】
○体をきたえて伸びる子
・健全な身体と規律ある生活を通して、健康で明るく、目標をもってすすんで行動する児童の育成【実践力】

1 目指す学校

①「第3次府中市学校教育プラン」との関わり

第3次府中市学校教育プランでは「子供たちが心身ともに健康で知性や感性を磨き、道徳心を育み、体力を向上し、人間性豊かに成長する」ことを願っている。

また、「目指す人間像」として

【人権感覚と規範意識】「他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人」

【社会的な資質・能力】「社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人」

【確かな学力】「自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人」

の育成に向けた取組を推進していくことを教育目標として掲げている。

人と関わり豊かに学び、成長する中で培われる他人への思いやりや優しさ、また、価値観の違う人とも互いのよさを受け入れ、高め合いながら課題を解決していく力を養うことは、現在のグローバルな社会で活躍する人材を育成ために欠かせない。このような人材育成を目指す上でも、「共感する心」を育むことはその土台となり、学校教育の大きな役割であると考え。この考えに基づき、新町小学校は、誰もが互いの人格と個性を尊重し合い、多様な在り方を相互に認め合える児童の育成を目指す。そのために、常に「互いの思いに共感し、励まし合い、高め合う経験を積み上げること」を重視しながら教育活動を推進する。

②「全ての子供が幸せになる学校」の実現

全ての子供は家族や教職員にとって宝物であり、大人にとっても子供にとっても我が子（自分）を大切にしたい気持ちは、全ての家族（子供）にとって同じである。しかし、我が子（自分）の幸せを願う気持ちが強いばかりに、相手の人格を蔑ろにしてしまうことも起きがちである。「全ての子供が幸せになる学校」を築くためには、相手への気遣いの心を持ち、互いの「宝物」を大切にしたい気持ちをもって考えたり、行動したりできる力を養うことが不可欠である。大人も子供も相手に敬意を示し、相手も自分も大切な存在として互いに寄り添うことができる学校を目指していく。そのために、保護者と地域、学校がそれぞれの役割を十分に果たすように努め、よりよいパートナーシップを築きながら進んでいく。

2 中期的目標と方策 及び 3 今年度の取組目標と方策

(1) 豊かな心の育成

- ①他者を思いやり、相手に尽くす心の育成 ②いじめ防止対策の徹底
- ③不登校児童への支援の強化 ④道徳教育の推進、規範意識の確立
- ⑤男女平等、性の多様性に対する理解教育の推進 ⑥キャリア教育の推進

【教育活動の目標と方策】 【重点目標と方策】

①他者を思いやり、相手に尽くす心の育成

- ・「ひびかせよう！新町“あいうえお”」をスローガンとして、一人一人の頑張りを認め、称賛する心を養う。（㊦ありがとう ㊧いいね ㊨歌声 ㊩Excellent ㊪おはよう）
- ➡あいさつを核とした基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と思いやりの心を育てる。
登校時のあいさつを毎日行うとともに、児童会主催の「あいさつ運動」週間を年3回行う。
- ・互いの共感を生む活動や体験を重視した学習場面を工夫して取り上げる。
- ➡全校遠足「探検府中の森」を活動の中心にして11回の異学年交流を行い、自他のよさを認め合い、自己肯定感を高める活動に取り組む。また、高学年児童のリーダー性を育てる。
- ・動物介在教育の機会を通して優しい心を育成する。
- ➡「東京農工大学のたつと」及び「新町小のたつと」との連携を深め、低、中学年を中心に年3回以上の動物とふれあいの機会を設ける。栽培・飼育委員会を発足し、児童が主体となった動物介在教育の充実を図る。

②いじめ防止対策の徹底

- ・いじめを生まない、許さない学校づくりを推進する。
- ➡「心の健康観察」を活用し、毎月いじめ等に対する状況把握をきめ細かく行い、早期発見、瞬時対応を図る。3日以内にいじめ対策チームで情報共有し、組織的対応を図る。
- ➡いじめ対策チームへのスクールサポーターの活用等によりいじめの未然防止に努める。
- ➡ふれあい月間を含め、全校朝会等で年5回のいじめ及びSNS問題防止指導を行う。
- ➡年3回のいじめに対する授業、教員研修及び年1回のSOSの出し方に関する教育を行う。

③不登校児童への支援の強化

- ・サポートルームの校内支援体制の強化、施設の改善を行い、効果的に活用する。
- ➡活動計画及び活動記録の蓄積、ICT機器を活用した学習支援、児童同士のコミュニティ活動等を充実させ、個に応じた多様な学びの場を提供する。
- ➡毎月、不登校児童に関する校内委員会を行い、情報共有と具体的支援方法を検討する。
- ➡学校長や担任、SCによる保護者面接を学期1回以上行い、具体的支援方法を検討しながら共通理解を図り、保護者との連携を深める。

④道徳教育の推進、規範意識の確立

- ・全教育活動で道徳教育の充実に取り組むとともに、「考え、議論する道徳」「問題解決的な学習」「体験的な学習」等の授業への質的転換を図る。

⑤男女平等、性の多様性に対する理解教育の推進

- ・1学期に東京都主催の研修会に参加し、校内で伝達研修を行う。
- ・学期に1回、授業又は全校朝会等で理解教育に向けた取組を行う。

⑥キャリア教育の推進

- ・各教科を通して「人間関係形成能力」の育成を目指す。3年生、6年生では、市制70周年を踏まえた地域人材や伝統文化を有効活用した体験学習等を行い、働くことの大切さや苦勞、生きがいを学ぶ活動を取り入れる。

(2) 確かな学力の定着

- ①資質・能力を育成するために特に重視する4つの視点を意識した学習の推進
- ②校内研究及び読書活動の推進と教員の授業力の向上
- ③基礎的・基本的な学習内容の定着
- ④ICTを活用した授業改善
- ⑤英語教育の推進

【教育活動の目標と方策】 【重点目標と方策】

①資質・能力を育成するために特に重視する4つの視点を意識した学習の推進

- ・「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の4つの視点のどれを重点にした学習であるかを教師、児童が共に明確にして学習に取り組む。
- ➡授業計画及び黒板に明示し、意識付ける。

②校内研究及び読書活動の推進と教員の授業力の向上

- ・国語科「話すこと・聞くこと」をテーマに、年3回の研究授業行う、
- ➡授業実践の豊富な講師を招き、「話すこと・聞くこと」に関する研修を行い、授業力を養う。
- ➡「話し合いの可視化」「モデルや話型の提示」「学びの自覚化」などを視点に研究を深める。
- ・読書活動を充実させ、本に親しむ心とともに読解力、論理的思考力、集中力などを高める。
- ➡朝の読書タイムを週3回に増やすとともに、読書旬間を設ける。
- ➡学校図書支援員、保護者読み聞かせボランティア等との連携を深め、読み聞かせ、ブックトーク、全校読書会等の読書活動を充実させる。

③基礎的・基本的な学習内容の定着

- ・漢字力、計算力の定着を最重要課題とし、日常の授業及び次の機会で学習内容を習得させる。
- ➡ア) 東京ベーシックドリル診断テスト(年3回) イ) 習熟の時間(週3回)
- ウ) 放課後支援枠(週2回)

④ICTを活用した授業改善

- ・タブレット端末の機能やeライブラリなどのデジタルドリル等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を目指す。
- ➡授業参観では児童全員がICT機器を活用した指導を年1回以上義務付け、教師及び児童のICT活用能力を一層高める。

④英語教育の推進

- ・5年生のTGGでの英語体験活動、3年生以上の「世界とつながる英語Enjoy Week」等を実施し、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
- ・学活や給食時等にもALTと関わり、日常の中でもコミュニケーション能力を育成する。

(3) 健やかな体の育成

- ①体力向上を図る授業改善と組織的な取組
- ②未来へつなぐ府中2020レガシー教育の充実
- ③健康教育の推進

【教育活動の目標と方策】 【重点目標と方策】

①体力向上を図る授業改善と組織的な取組

- ・運動量を確保し、技能及び体力の向上を図る授業力を高める。
- ➡管理職による授業観察を学期に1回以上行い、授業力向上を図る。
- ・体力テストの結果を基に、握力、持久力を中心とした体力向上プログラムを推進する。
- ➡「府中ロープチャレンジ旬間」を設け、校内大会を実施する。「規定A部門」において上位入賞を目指し、取組を工夫する。
- ➡「持久走旬間」を設け、持久力向上を目指した取組を工夫する。
- ➡敷地内に様々な運動習慣を身に付ける場を設置し、日常的な体力向上の取組を推進する。

②未来へつなぐ府中2020レガシー教育の充実

- ・市制施行70周年等を機に、「ふるさと府中」に誇りをもてる児童を育成する。
- ➡「未来へつなぐ府中2020レガシー」教育の具体的取組を継続、発展させ、府中市の未来について考える活動を学年ごとに行う。
- ➡オリンピック、パラリンピアンを活用した授業やパラスポーツ体験等を年2回計画的に行う。

③健康教育の推進

- ・学校医や関係機関等と連携した健康教育（がん教育、薬物乱用防止教室棟）を行い、正しい知識を身に付け、健康の保持増進を図る。

(4) 安心・安全な教育環境の整備

- ①安全点検・安全指導の継続・充実（感染症対策を含む） ②危機管理体制の再整備

【教育活動の目標と方策】 【重点目標と方策】

①安全点検・安全指導の徹底

- ・食物アレルギー事故の未然防止に向け、複数の防止策を徹底する。
- ➡給食担当者及び管理職が保護者からの提出資料の確認を徹底する。
- ➡各教室の配色表の掲示場所の統一、配膳順序の徹底、食前の担任及び管理職と児童による除去食の確認作業を徹底する。
- ➡年1回、食物アレルギー対応を含めた校内事故の未然防止に向けた講習会を実施する。

②危機管理体制の再整備

- ・毎月、担当者による校内の危険個所の把握と整備を進め、組織的に危険回避を行う。
- ・有事の際の指揮命令系統を確立するため、防災マニュアル等を活用し、家庭と連携した危機管理意識の醸成を図る。
- ・引き渡し訓練（8月）を学校防災の日と位置付け、災害や安全について考える機会となるよう、保護者、地域に呼びかける。

(5) 小中連携一貫教育の推進、地域連携

- ①近隣小中学校との連携の充実（9年間を見通した教育の推進）
②コミュニティ・スクールの推進 ③PTAとの連携の強化

【教育活動の目標と方策】 【重点目標と方策】

①近隣小中学校との連携の充実（9年間を見通した教育の推進）

- ・府中第五中学校区における小中連携一貫教育を進める中で、9年間の成長を見据えた子供像を共有化し、指導の統一化を進める。
- ➡青少対地区委員会と連携して五地区サミットを行い、市制施行70周年を機に、児童の社会及び府中市の未来について考える力をより一層高めるとともに、郷土心を育む。

②コミュニティ・スクールの推進

- ・各学期1回のコミュニティ・スクール協議会を活用して児童の状況等に関する情報共有を図り、学校整備や安全対策などでの連携を深める。

③PTAとの連携の強化

- ・PTAとの連携を深め、年に数回、協働して児童の安全を守る活動や学校行事を行う。
- ・年2回の学校評価アンケート（項目改正）を行うとともに、保護者や関係者からの意見や要望に対しては迅速かつ丁寧な対応を心掛け、十分な説明責任を果たす。

(6) 組織的な学校運営の推進と人材育成

- ①特別支援理解教育の推進 ②職層意識の向上と職層を意識した人材育成
③校務の効率化と適正化 ④服務事故防止に向けた意識改革 ⑤教職員の心の健康の保持増進

【教育活動の目標と方策】 【重点目標と方策】

①特別支援理解教育の推進

- ・特別支援教育に対する意識と専門性を高める機会を充実させる。
- ➡全学級で実施する特別支援教室担任による「特別支援理解教育」を一層充実させ、共感する心を醸成する。
- ➡年13回の校内委員会（内3回は「児童理解の会」）を行い、適切な指導・支援の方策を具現化するとともに、全ての教員の専門性を高める。

②職層意識の向上と職層を意識した人材育成

- ・主幹教諭、主任教諭の若手人材育成に対する意識と若手教員の教師力向上を図る。
- ➡主幹教諭及び主任教諭の専門性を生かしたOJTを年9回以上、また若手教員からの課題に応じたOJTを年3回以上実施し、若手教員の授業改善、生活指導力向上に努める。

③校務の効率化と適正化

- ・職員会議の提案方法を改善（ICT活用、提案資料の重点化）するなどして職務の効率化を進め、在校時間を減らす実効性のある働き方改革を推進し、月2回のノー残業デーを推進する。
- ・毎週1回経営会議を開催し、経営方針伝達場として活用し、副校長及び主幹教諭の指導・監督、調整機能を十分に発揮できるようにする。
- ・副校長等校務改善事業を活用して事務負担を軽減し、副校長がより積極的に人材育成に関わることが出来る体制を整え、教員の資質向上を図る。

④服務事故防止に向けた意識改革

- ・夕会及び職員会議で服務事故情報を活用して継続的に啓発を行い、規律遵守意識を高める。
- ・年6回、重点項目設定した研修会を実施し、服務事故防止の徹底を図る。

⑤教職員の心の健康の保持増進

- ・日常的によりよいコミュニケーションをとるとともに、ストレスチェックを活用し、教職員のメンタルヘルスに努める。
- ・メンターを効果的に活用し、若手教員のメンタルヘルスの維持増進を図る。

【学校評価アンケートにおける数値目標】

項 目	児 童	保護者	「分からない」 回答の割合
1. 楽しい学校生活	91%以上	90%以上	
2. 基礎学力	92%以上	90%以上	
3. ICT活用能力	90%以上	80%以上	
3. 運動への取組	85%以上	80%以上	
4. あいさつ	90%以上	80%以上	
5. 思いやり	90%以上	90%以上	
6. 健全な友達関係	95%以上	95%以上	
7. 規則尊重	93%以上	93%以上	
8. 勤労意欲	93%以上	80%以上	
9. 健康の保持増進	80%以上	80%以上	
10. 情報発信		90%以上	5%以下
11. 魅力ある学校行事		90%以上	
12. いじめ・不登校対策		90%以上	5%以下
13. 地域、保護者への対応		90%以上	5%以下
14. 校内美化		90%以上	5%以下

